

令和4年度「知事と市町長の円卓対話」（紀宝町）概要

- 1 対話市町名 紀宝町（紀宝町長 にしだ けん 西田 健）
- 2 対話日時 令和5年3月7日（火）16時10分～17時00分
- 3 対話場所 飛雪の滝キャンプ場 2階研修室
（南牟婁郡紀宝町浅里1409-1）
- 4 視察場所 熊野川河口付近（新宮紀宝道路熊野川河口大橋工事現場）
飛雪の滝キャンプ場
- 5 対話項目
 - （1）新宮紀宝道路の早期完成、紀宝熊野道路の工事着手（高規格幹線道路網の整備促進）について
 - （2）人口減少対策について
 - （3）浅里地区地滑り対策及び一般県道小船紀宝線浅里バイパス整備について
- 6 対話概要

対話項目（1）新宮紀宝道路の早期完成、紀宝熊野道路の工事着手（高規格幹線道路網の整備促進）

（町長）

新宮紀宝道路について、着実に工事が進捗しており、熊野川河口大橋は上部工事を一部残すのみとなり、令和6年秋の開通に向け工事が進んでいること感謝申し上げます。

南海トラフ地震が発生した際には、地域が厳しい状況になるため、さらなる対応が必要であり、救援物資等を届けてもらうために高規格道路は必要不可欠であるため、紀伊半島一周に向け、一日でも早い完成に向けよろしくお願いいたします。

（知事）

紀宝熊野道路のうち、紀宝町内ではこれから用地買収に入っていく予定です。全線開通すれば、紀宝町へのアクセス時間が短縮され、観光客も来やすくなり、通勤もしやすくなります。命の道と言うことで、三重県に一本背骨を通すため、早期完成を目指しています。

南海トラフなどの大規模災害発生時には、甚大な被害が出て、迅速に情報をつかみ、すぐに救助要請し活動に入る必要があります。そのため、県では、あらかじめ市町に派遣する3人の職員を指定し、情報収集、救助要請の早期化も目指しています。

対話項目（２）人口減少対策について

（町長）

人口減少対策は、国・県・市町が総力を挙げて取り組むべき喫緊の課題であり、町としましても、通院に要した交通費や宿泊費を助成する「不妊治療支援」、「高校3年生までの医療費助成」、「保育所・幼稚園・小学校・中学校の給食費無償化」など妊娠前から出生期・子育て期に対し、切れ目なく子育て環境の充実を図っております。移住定住の促進では、「移住新生活応援事業」や「結婚新生活支援事業」、若者の住宅取得支援として「固定資産税の減免」「浄化槽設置分担金の軽減」・全世代を対象とした「木造住宅建設促進助成」・「住宅購入支援」・「空き家バンク制度の充実」など様々な施策を展開し、人口減少対策に取り組んでいるところであります。このような取り組みを続けた結果、平成27年度から令和4年12月末日現在、129世帯、計277名の方が移住され、総務省が公表している「住民基本台帳人口移動報告」から分析した民間の調査によると、令和元年と令和3年を比較した30代から40代の転入超過率の改善幅が東海4県で「紀宝町」が4位になるなど一定の成果が現れてきていますが、依然、人口減少に歯止めがかかる状況にはありません。

令和5年度から「保育料第2子以降の無償化」・「出産祝金制度の拡充」など様々な施策を展開し、人口減少対策やさらなる子育て環境の充実を図り、紀宝町に「住んでみたい」・「住んでよかった」と思ってもらえるよう取り組んでいく予定です。

みえ子育て応援総合補助金の創設について感謝しており、今後も、より一層連携し、人口減少対策に取り組んでいきたいと思っております。国に対し人口減少問題を国家プロジェクトとして、積極的な財政出動や仕組みづくりの創設の要望をお願いします。

（知事）

県民対話の中で、子育てするなら紀宝町と言っていた。医療費支援、悩みごとを共有できる場の創設など、素晴らしい環境だと思います。

自然減対策（少子化対策）は県・市町だけで取り組むのは難しいです。子育てのための資金や医療費を国から供給してもらうことが大切で、国に要望しています。

社会減対策（移住の促進）で、移住・Uターンを促進していきたいと思っております。来年度から、南部地域に人口減少対策コーディネーターを4名置き、移住などに関する様々な相談に乗れるようにします。また、移住については関西圏や中京圏により一層働きかけを行います。

日本で初めて人口減少対策の課を作り、県としての人口減少対策の方針を出します。令和5年度当初予算では、「みえ子どもまるごと支援パッケージ」として予算額100億円を計上しました。その中には、市や町が行う子ども・子育て支援の取組を

応援するために創設した総合補助金もあります。負担割合は、県 1/2、市町 1/2 の予定ですが、例えば人口減少の進行が著しい地域は、負担割合を 2/3 にするなどの検討も行っていきます。市町は多くの知恵やアイデアをお持ちのため、地域の実情に応じたさまざまな取組に活用いただきたいと思います。

(町長)

医療の問題も深刻です。現在、紀宝町では地域医療研修センターを作り、多数(47名)の研修生を受け入れ、地域で頑張る医者を育成する拠点とする予定です。また、紀宝町は在宅医療の開業医が増えており、今後、町立の訪問看護センターを作りたいと考えています。

(知事)

三重県では医師の数が足りていない。地域の医師を増やすために県全体の医師を増やさなければならない。また、若い医師が三重県で働きたいと思ってもらえる魅力が必要であり、三重県出身の医師が帰ってきたいと思ったときに帰りやすい手立てが必要である。こうした取組を先頭に立って行っていきます。

(町長)

労働力の確保が難しい状況であるため、令和5年度から町独自で雇用連絡調整協議会を作る予定です。地域で活躍できる人材の育成が人口減少対策に繋がると思うので、ご協力をお願いします。

対話項目(3) 浅里地区地滑り対策及び一般県道小船紀宝線浅里バイパス整備について

(町長)

浅里地区の地滑り対策におきましては、発災以来、多大なるご尽力を賜り誠にありがとうございます。

これまで、三重県におかれましては、令和9年度の完成に向けて様々な地滑り対策工事や迂回路整備を行っていただいております。地域住民や飛雪の滝キャンプ場への道路利用者は、地滑りの影響を受けることなく通行が可能となりましたこと、重ねて御礼申し上げます。

現在、同地区の課題といたしましては、迂回路に接続している県道小船紀宝線の一部区間で、交互通行が困難な狭隘箇所や、見通しの悪い場所があり、安全で円滑な交通に支障を来しております。

このため、新たにバイパスを整備していただくことで、本町の観光拠点である飛

雪の滝キャンプ場へのアクセス性が向上され、地域の活性化にも寄与されることが期待できます。

また、地滑り箇所町道及び林道の復旧に関しましては、地滑り対策と密接に関係しており、一日でも早い復旧、復興ができるよう、治山事業との連携について格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

これらの課題が解消され、地元住民が安心して暮らし、多くの観光客でにぎわう「浅里地区」に早期に回復できますよう、より一層のご高配を賜りますようお願いいたします。

(知事)

小船紀宝線は何度も要望いただき、令和5年度から新規事業着手し、バイパスを作らせていただきます。これから事業説明会や用地買収があるためご協力をお願いします。

地滑りについては、令和3年度から治山事業として工事に着手しており早期の対策完成を目指しています。また、町道、林道についても県として支援を実施していきます。